

## 11/12 初冬恒例みそ作り教室 ウイメンズネットワーク洞爺湖

**ウ** イメンズネットワーク洞爺湖（青木佐智子代表）が、初冬恒例のみそ作り教室を虻田ふれ合いセンターで開催し、約30人が手作りみその仕込みを楽しみました。

参加者たちは、慣れた手つきで大豆15キと米麴15キ、塩1・8キを練り合わせみそを作り上げました。

大豆を煮ている時間を使い、大根をメインとしたポタージュや揚げ出し大根など計4品を調理しました。



手作りみその仕込みを行う参加者

## 11/10 緊急医療体制が評価される 洞爺協会病院北海道知事感謝状受賞

**社** 会福祉法人北海道社会事業協会洞爺病院（青木茂院長）が救急医療体制について評価され、北海道知事感謝状を受賞しました。

同病院では、365日24時間体制で救急搬送に対応し、年間約400件の救急搬送を受け付けています。

受賞した青木院長は、「今までの実績が評価された。これからも救急医療をはじめとして、地域医療に最大限貢献していきたい」と話しました。



感謝状を受賞した洞爺病院青木茂院長

## 11/22 環境にやさしい暮らしを ハート型ペットボトルキャップなど配布

**ユ** ネスコ世界ジオパークである洞爺湖町では、国からの交付金を受け、ペットボトルの再利用とキャップの回収を促すため、特製のペットボトルキャップを制作し、小学3年生以上の児童・生徒に配布しました。本事業は、資源の再利用を通じて、世界的なプラスチック問題を意識してもらうという取り組みです。

ペットボトルキャップは、今後、町のジオパーク関連事業で配布する予定です。



とうや小学校で行われた贈呈式

## 11/21 噴火に備え、考える 土砂災害減災シンポジウム

**令** 和元年度土砂災害減災シンポジウム（北海道、（公社）砂防学会北海道支部などが共催）が洞爺湖文化センターで開催されました。土砂災害を減らすことを目的に実施され、大学の研究者や民間技術者、行政の担当者など約250人が参加。

「北海道の火山地域における土砂災害の減災戦略」と題して特別講演を行った丸谷知己北海道大学名誉教授は「今後は時の予測ではなく場所の予測をしなければならぬ」と話しました。



丸谷北海道大学名誉教授が行った特別講演

11/26 防災・減災について学ぶ  
1日防災学校

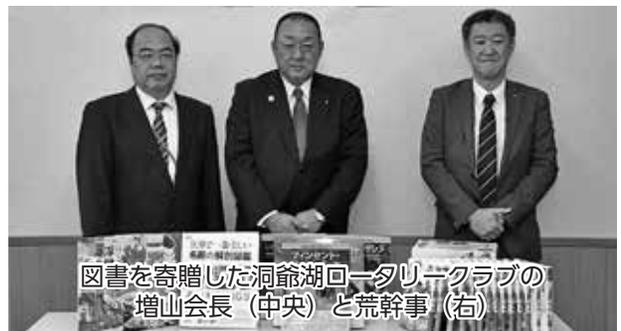
**災**害が起きたときに自らの的確な判断で、防災・減災行動をとることが出来る自立性などを育むことを目的に、1日防災学校が洞爺湖温泉小学校で実施されました。  
当日は、火山マイスターの荒町美紀さんから、2000年有珠山噴火のときの避難所の様子について講演を聞いたあと、新聞紙のスリッパや非常食作りを行い、最後は全校生徒で避難所運営やダンボールベット作りを体験しました。



ダンボールベットを作る子どもたち

11/25 洞爺湖ロータリークラブ  
町内5小中学校に図書を寄贈

**洞**爺湖ロータリークラブ(増山顕佑会長)は、町内5小中学校に、各学校が選書した図書を合計100冊贈りました。増山会長と荒秀樹幹事が教育委員会を訪問し、皆見教育長に図書を寄贈しました。  
「考える力」の育成を目的に、1校3万円以内で図書を寄贈して5回目。  
増山会長は「読書を通じて子どもたちに学んでほしい。今後もしっかりしていきたい」と話しました。



図書を寄贈した洞爺湖ロータリークラブの増山会長(中央)と荒幹事(右)

11/27 災害に備えた準備と活動を考える  
入江4区自治会防災研修会

**入**江4区自治会には有珠山噴火や津波、土砂災害などに備えて、自治会としてどのように取り組むべきかを考えるため、町が推進している自主防災組織に関する勉強会を開催し、自治会役員や地域住民など約10人が参加しました。  
当日は役場企画防災課職員を講師として招き、町の防災・減災に対する取り組みや自主防災組織の必要性や役割などの説明を受け、活発な意見交換を行いました。



防災について学ぶ地域住民

11/26 男性の料理力向上へ  
男性のための料理教室

**男**性の食生活の向上を目的に男性のための料理教室(とうや湖町食育の会主催)が、健康福祉センターさわやかで開かれ、魚介のピリ辛丼などの料理作りに挑戦しました。  
男性12人、会員12人が参加し、刺身で魚介のピリ辛丼、リンゴと大根の切漬け、キノコのみぞれ汁の3品を調理。参加した男性は「妻にごちそうしたいと思いを参加しました。栄養価の高いものを食べてもらいたい」と調理していました。



会員に教えてもらいながら調理する参加者